

家庭ごみの減量に取り組みましょう！

問
い
合
わせ

環境課環境グループ

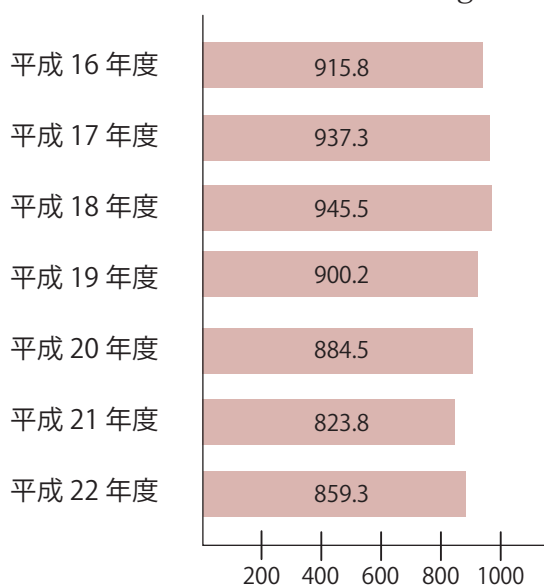
☎298-1111(内線447~449)

那珂市の家庭から出される 可燃ごみの約33%が紙ごみ

右の棒グラフで示した図は、那珂市民1人が家庭から出した1日あたりの可燃ごみの量で、平成16年度から平成22年度までどのように推移したかを示しています。平成18年度以降、少しずつながらも減少傾向にあります。排出量はまだまだ多い状態です。これは、可燃ごみの分別が徹底されていないことが要因の一つとなっています。今回は、家庭ごみのうち、「紙ごみ」のリサイクルについて取り上げます。

大宮地方環境整備組合の環境センターで焼却処分される家庭から出される可燃ごみのうち、「紙ごみ」が最も多く約33%を占めています。可燃ごみを焼却すると、その15%が焼却灰として残り、埋め立て処分されています。紙類はほとんどが「資源」として再生することができますので、ごみの分別にご協力をお願いします。

図1 那珂市民1人1日あたりの可燃ごみ排出量
(単位：g/人・日)



紙類の分別は？

①新聞・折込チラシ、②段ボール、③その他紙類（雑誌・雑がみ類）、④紙パックの4種類です。

紙類の出し方は？

種類ごとに分別し、ひもでしばって出してください。

- ひもはビニールひもでもかまいません。
- 粘着テープは使用しないでください。
- ビニール袋や箱に入れないでください。
- 雨の日もそのまま出してください。

(水や薬品で溶かすので、濡れてもリサイクルには影響ありません)





◆しっかりとひもでしばってください。

リサイクルできない紙類

防水加工された紙やビニールでコーティングされた紙（紙コップやヨーグルトの容器、断面にビニールが見えるもの）、感熱紙（レシートなど）、写真・写真プリント用紙、カーボン紙（宅配便の伝票など）、墨がついている書道紙など、圧着ハガキ、汚れた紙（ピザの箱、使用済のティッシュ紙など）は、燃えるごみへ出してください。

出すものの例と出し方のポイント

種類によっては異なる紙製品にリサイクルされるので、表を参考に、4つに分別して出しましょう。

新聞・折込チラシ	<p>新聞紙と折込チラシは、一緒に十文字にしばってください。</p> <p>※折込チラシ以外は混ぜないでください</p>	
段ボール	<p>粘着テープ類やカーボン紙は取り除いて、たたんで十文字にしばってください。</p> <p>※留め金はそのままで大丈夫です</p>	
その他紙類	<p>雑誌（週刊誌・単行本・文庫本・カタログなど）と、雑がみです。雑誌は十文字にしばってください。</p> <p>雑がみ（お菓子・食品・ティッシュなどの紙箱、封筒、トイレトペーパーやラップの芯、ダイレクトメールのチラシ類、コピー用紙・プリンター用紙、包装紙、メモ帳、ノート、紙袋、カレンダー、画用紙・習字の紙など）は、紙袋に入れるか、大きめの紙に包んで、ひもでしっかり十文字にしばってください。</p> <p>※紙以外の部分を取り除いてください</p> <p>※箱類は、必ずたたんでください</p> <p>※窓付き封筒のセロファンは可燃ごみへ出してください</p>	
紙パック	<p>洗って開いて乾かしてから、十文字にしばってください。</p> <p>※裏がアルミコーティングされている（銀紙）ものは、可燃ごみへ出してください</p>	

紙ごみと二酸化炭素（CO₂）

平成24年度に環境センターでリサイクルされた紙ごみの総重量は948.4トンで、回収業者への売り払い額は約608万円でした。一方で、リサイクルされずに可燃ごみとして焼却された紙ごみの年間総重量は2455.3トンと推定されます。これは紙ごみの約72%が燃やされたこととなります。紙ごみを燃やすには電気が必要です。平成24年度の焼却施設電気使用量は3,389,852KWhでした。この値を紙ごみの重量で按分して紙ごみの焼却に使用された電気使用量を算出し、その値にCO₂の排出係数0.463kg・CO₂/KWh（東京電力データ）を掛けると、紙ごみを焼却したときの化石燃料由来のCO₂排出量が約720トンと推定できます。また、焼却には補助燃料として灯油が必要で、それによるCO₂の排出量は約7トンと推定できます。合計で約727トンのCO₂が排出されたこととなります。

日頃からの皆さんのリサイクルの取り組みが、地球温暖化の原因となるCO₂の削減や森林伐採の抑制につながります。